

## 2016年度 日本臨床検査医学会 第2回 理事会 議事録

日時：2016年6月11日（日）13：30～16：00

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部 会計理事、東條尚子 庶務理事、前川真人、小柴賢洋、宮地勇人、~~久~~谷直人、木村 聡、戸塚 実、柴田綾子、下 正宗、本田孝行、石井潤一、岡山昭彦 各理事 （16名）

欠席：清水 力、賀来満夫、一山 智、通山 薫 各理事 尾崎由基男、高木 康 各監事（6名）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり、宮地勇人理事、石井潤一理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

### I 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の2016～2017年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

会員へ臨床病理誌閲覧サービスがホームページよりアクセス可能となったこと、優秀論文賞 受賞候補者 3名を学会賞委員会に報告したこと、依頼中と検討中のトピックス、経費削減のため臨床病理誌巻頭毎号に掲載されている投稿規程等はホームページを活用することが報告された。

##### 2) 遺伝子委員会報告（宮地勇人 担当理事、前川真人 委員長）

ゲノム医療実現を推進するゲノム医療実現推進協議会（健康・医療戦略推進本部、健康・医療戦略推進会議のもとに設置）の中間報告（2015年7月）に基づき、2015年11月からゲノム情報を用いた医療等の実用化推進タスクフォースが設置され、ゲノム医療の基盤となる遺伝子関連検査の品質保証、施設認定などの体制整備に関する議論が進められており、会議資料は、厚生労働省 HP「<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kousei.html?tid=311652>」から閲覧可能であることが報告された。

##### 3) 国際委員会報告（村上正巳 担当理事、宮地勇人 理事）

第14回 ASCPaLM での Executive Board and Council Meeting に村上正巳理事、宮地勇人理事が出席したこと、2016年10月26日～28日ソウル（韓国）で開催される LMCE (Laboratory Medicine Congress & Exhibition) and KSLM (Korean Society for Laboratory Medicine) 57th Annual Meeting に宮地理事が出席し、Keynote Speech を行う予定であること、第15回 ASCPaLM は、2018年9月16～18日にモンゴルのウランバートルで開催されること等が報告された。

##### 4) ワークライフバランス委員会報告（山田俊幸 担当理事）

第1回委員会2016年5月31日に当会事務所で開催し、以下の事項を検討したことが報告された。

・実施したアンケートの意見をもとに、2016年度より委員会名を「女性支援WG」から「ワークライフバランス委員会」に改称した。

・第62回学術集会で託児室利用者アンケートを実施したこと、学術集会託児室運営では利用者が少ないため利用拡充に向けて方策を検討していく。

・第63回学術集会でのワークショップとして、9月4日（日）に「新専門医時代 ～臨床検査医学がアピールできること～」(臨床検査医学会 教育委員会、ワークライフバランス委員会 主催、日本医師会および臨床検査専門医会 教育研修委員会共催)を企画し、日本医師会平成28年度医学生、研修医をサポートするための会費用より上限30万円の補助を受ける。

・日本医師会と東京女子医大の女性医師復職支援センターのホームページ Q&A 原稿と臨床検査専門医の紹介文を提出し、今後、臨床検査医学に関心のある復職希望医師への紹介を依頼した。

- ・学術集会の講習会参加できない場合、講習をビデオ等での聴講の要望が多くあったため、教育委員会へ検討依頼し、第 63 回学術集会より DVD 撮影が実施予定となった。
- ・当会ホームページへ「復職を希望する女性医師」向けの説明文掲載の提案があり、他学会等、外部への発信を検討する。

#### 5) 新専門医制度広報アドホック委員会 (山田俊幸 担当理事)

2016 年 5 月 27 (金)、当会事務所で開催し、以下の事項検討したことが報告された。

- ・初期研修医および他領域医師に向けて臨床検査専門医の職務内容をアピールする目的で、当会ホームページに Q&A 方式の広報サイトを立ち上げた。
- ・レジデントノート(羊土社)、初期研修医向けの病理医・臨床検査医紹介連載 (6 回) に執筆した。
- ・日本医師会と東京女子医大の女性医師復職支援センターホームページに、Q&A 原稿と臨床検査専門医の紹介文を提出し、臨床検査医学に関心のある復職希望医師への紹介を依頼した。
- ・東京女子医大より、女性医師復職支援 e-learning に、臨床検査医学紹介ビデオアップの依頼があり検討した。
- ・ホームページ広報サイトにベテラン医師向けの広報を作成予定。
- ・レジデントノート(羊土社)誌上での長期連載企画を日本臨床検査専門医会広報委員会と合同で準備中。
- ・第 63 回学術集会ワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査医学がアピールできること～」(臨床検査医学会教育委員会・ワークライフバランス委員会主催、日本医師会・臨床検査専門医会教育研修委員会 共催)を開催すること。

#### 6) 熊本地震対策委員会 (久谷直人 担当理事および委員長)

4 月 14 日に熊本地震が発生したため、関連団体等と協力し、熊本県、大分県の被災地への臨床検査の支援、サポートするため熊本地震対策委員会が設置され、検査機器、試薬支援依頼に対応した。そして、5 月 27 日と 28 日に二班に分けて被災地の視察を行ったことが報告された。

#### 7) 試験委員会・試験実行委員会報告 (宮地勇人 試験委員会委員長)

7 月 23 日 (土) ～24 日 (日) の臨床検査専門医試験に向け、4 月 16 日、5 月 21 日に試験委員会・試験実行委員会を開催した。以下のとおり主な討議内容が報告された。

- ・試験実行委員会委員として評議員の協力が必要であるため、理事会に評議員の責務として明示する提案をしたい。
- ・判定基準の見直しを行った。
- ・試験問題のセキュリティ確保の方法について確認した。
- ・試験問題についてブラッシュアップ作業を行った。
- ・実技試験問題の提案と検討を行った。

#### 3. 第 63 回学術集会報告 (神戸 2016/9/1(木)～9/4(日)) (小柴賢洋 会長)

2016 年 9 月 1 日(木)～4 日(日)に、神戸国際会議場において、メインテーマ「Challenge」(医学検査学会と共通)、サブテーマ「臨床検査の連携・協働」として、第 65 回日本医学検査学会、IFBLS2016 (第 32 回世界医学検査学会)、第 11 回日本臨床検査学教育学会と同時開催の、第 63 回学術集会の現時点の日程表が提示され、医学検査学会共催での特別講演は、井村裕夫先生 (京都大学元総長)、テーマ「先制医療とその実現に向けての課題」で、当会の特別講演は、Michail V. Sitkovsky 教授 (Director, New England Inflammation and Tissue Protection Institute, Northeastern University)、テーマ「Anti-Hypoxia-A2-Adenosinergic coadjuvants to enable the immunotherapies of cancer and infectious diseases.」のことで、事前登録は 6 月末日であること等が報告された。

#### 4. 第 64 回学術集会報告 (京都 2017/11/14(木)～19(日)) (村上正巳 会長)

国立京都国際会館 (京都) において、2017 年 11 月 16 日 (木) ～11 月 19 日 (日) に、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」(Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation) として第 64 回学術集会を、11 月 14 日 (火) ～11 月 17 日 (金) に第 29 回世界病理学・臨床検査医学会連合会議 (The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPALM)) を合同会議として開催予定であり、合同参加費は 4 万円程度とし、第 63 回学術集会終了後に、理事、委員会、関連団体にプログラムに関して提案依頼をする予定であることが報告された。

## 5. 第 63 回学術集会抄録と広告について（諏訪部章 会計理事）

第 63 回学術集会は、第 65 回日本医学検査学会、第 32 回世界医学検査学会、第 11 回日本臨床検査学教育学会と同時期開催であり合同での抄録作成とすると通常の 3 倍ほどの厚さとなるため、抄録は CD での作成となった。CD となると閲覧されないことが懸念されるため、企業にメリットのある掲載を検討し、広告集としてまとめ企業毎のタグを作り、pdf 2 枚以内でカラー可能で一律 10 万円（税別）とし、また、希望により各企業 HP へのリンクも貼ることが報告され、理事へも募集の協力依頼がされた。

## 6. 2016 年度臨床検査専門医認定試験について（東京 2016/07/23(土)～7/24(日)）（矢富 裕 理事長）

7 月 23 日（土）～24 日（日）、杏林大学医学部で、渡邊卓試験実行委員長のもと実施予定であることが報告された。

## 7. 2016 年度実施第 8 回臨床検査管理医認定試験要領について（東京 2016/10/2(日)）（東條尚子 試験実行委員長）

第 8 回臨床検査管理医講習・認定試験実施要領、当日のプログラムが示され、10 月 2 日（日）に、東京医科歯科大学において実施予定であること、当会場で飲食が不可のため昼食時間を 1.5 時間取ったため、例年より開始時間を 0.5 時間繰り上げたことが報告された。

## 8. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会 3 月 27 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 平成 28 年度次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業「微量診断装置審査 WG」派遣委員として菊池春人先生（任期：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）を推薦した。
- 2) 同学院理事として前川真人先生から山田俊幸先生に交代の予定。
- 3) 2016・2017 年度内保連委員として新たに古川泰司先生推薦の予定。当会からは派遣委員は合計 4 名となる。
- 4) 7 月初旬に推薦依頼予定の日本医師会疑義解釈委員として、宮澤幸久先生、矢富裕先生を継続して推薦の予定。
- 5) 医療安全調査機構への派遣委員

統括責任者、中央審査委員推薦担当者：中谷 中 先生

事務局担当者：田辺正樹 先生

北海道 地域推薦窓口担当者：藤井 聡 先生（旭川医大）

東北 地域推薦窓口担当者：森兼啓太 先生（山形大）

関東 地域推薦窓口担当者：澤部祐司 先生（千葉大）

中部 地域推薦窓口担当者：湊宏 先生（金沢医大）

近畿 地域推薦窓口担当者：田中裕滋 先生（近畿大）

中国四国 地域推薦窓口担当者：末廣 寛（山口大）

九州 地域推薦窓口担当者：内海 健 先生（九州大）

## 9. JACLaS EXPO 2016 後援依頼について（矢富 裕 理事長）

2016 年 9 月 22 日（木）～24 日（土）、パシフィコ横浜で開催される臨床検査関連展示会（JACLaS EXPO 2016）より後援名義使用依頼、後援団体の負担として本展示会バナーの当会 HP への掲載と、臨床病理 64 巻 6、7 号への繰込広告掲載の依頼があり承諾したことが報告された。

## 10. 日本医師会 日本医学会「平成 28 年度医学生、研修医をサポートするための会」の開催について（矢富 裕 理事長、山田俊幸 ワークライフバランス委員会担当理事）

5 月 26 日付文書で日本医師会に、以下、ワークショップ「新専門医時代～臨床検査医学がアピールできること」を申請し、6 月 8 日付文書で日本医師会との共催（費用 30 万円までの補助が可能）が承諾された。

日時：2016 年 9 月 4 日（日）10：40～11：40、13：10～14：10（2 部構成）

場所：神戸国際会議場

対象：医学生、研修医、臨床検査専門医を含む医師（特に女性医師）

講習会等名称：第 63 回日本臨床検査医学会学術集会

プログラム：ワークショップ「新専門医時代～臨床検査医学がアピールできること」

第一部 ポスターセッション「臨床検査専門医のワークライフバランス」

第二部 グループディスカッション「臨床検査専門医の生涯教育を考える」

#### 11. 臨床試験医師養成協議会入会（正会員）について（矢富 裕 理事長）

当会から本田孝行先生を理事として推薦し、本協議会理事として登記済みであるが、正会員としての入会、支援依頼（年会費 20 万円）があり、入会届の提出、会費納入を行う予定であることが報告された。

#### 12. 事務局職員の採用について（矢富 裕 理事長）

4 月 19 日～5 月 13 日、マイナビ転職で事務職員を募集、5 月 19 日の常任理事会で 5 名を面接し、その結果、宮尾愛子氏を 7 月 1 日より採用（試用期間 3 ヶ月）することが報告された。

#### 13. その他

特になし。

### Ⅲ 審議事項

#### 1. 2016・2017 年度各種委員会委員について（矢富 裕 理事長）

2016・2017 年度各種委員会委員が提示され、承認された。

#### 2. 第 66 回、第 67 回の学術集会長について（2019, 2020 年度）（矢富 裕 理事長）

2018、2019、2020 年度の 3 年間の運営事務局を固定したことにより、運営会社より開催地の早期決定の要望があったこと、2020 年度は東京オリンピックが開催されるため早期の会場確保が望ましいことにより、第 66 回と第 67 回の学術集会長を決定するのがよいのではないかとということ、そして、昨年の理事会の経緯により、また地域的にも、学術集会長として立候補していた通山薫先生（中国・四国支部）、諏訪部章先生（東北支部）に依頼することが妥当ではないかとの提案があり、承認された。

#### 3. 国際学会参加助成金制度について（村上正巳 国際委員会担当理事）

国際委員会より、WASPaLM、ASCPaLM 限定のシンポジウムまたはワークショップに招聘されて発表をした医師以外の発表者 3 名以内に対して助成を行うことを目的とした国際学会参加助成金制度規定と申請書が示され、まずは、2015 年に開催された第 28 回 WASPaLM での対象者より応募可能としたいと提案された。制度名称の助成金は、大学で事務的に誤解を生ずる可能性があるため、国際学会参加補助金としたほうがよいのではないかとの意見があり制度の名称変更を条件として承認された。

#### 4. 功労賞・河合忠賞について（矢富 裕 理事長）

6 月 8 日依頼、6 月 10 日締切で、理事に、2016 年度の功労賞・河合忠賞該当者の推薦依頼をしたが、特に推薦がなかったため、常任理事会より宮澤幸久元理事長が推薦され、承認された。

#### 5. 新専門医制度について（山田俊幸 臨床検査領域 代表）

##### 1) 研修プログラムの申請状況一覧

臨床検査領域の研修プログラムの一次審査で承認された一覧が示され、指導医数、研修医募集数、連携施設数を確認した。

##### 2) 臨床検査専門医 認定更新制度規定の一部改定（案）について

現認定更新制度規定では、資格失効後 8 年までは、更新単位を取得したうえで臨床検査医学総論のみを受験して合格すれば更新資格が復活するが、それ以降は、再度、受験するしか資格復活の方法はない。新専門医制度での専門医試験が開始されるまでは何らかの救済措置が必要となり、保留期間 5 年経過後の失効の年数に係らず更新単位を取得したうえで、臨床検査医学総論を受験してこれに合格すれば専門医資格が復活するという改定案について提示され、承認された。

##### 3) 更新基準の改定について

新専門医制度更新基準の診療実績の証明について単位取得が難しい場合の措置として、臨床検査専門医認定試験の筆記試験を受験し合格に値する成績により代用することができるとし、また、特別基準 2 として連続して 3 回以上更新すれば 4 回目の更新から診療実績の証明を免除し、領域講習等で補う方法を選択できることを日本専門医機構

に承諾を得て改定したことが報告され、本件等を含めて 2017 年 1 月 1 日付の専門医更新対象者に新専門医制度での更新内容をメールで案内する確認があり、承認された。

#### 4) 更新用講習会欠席者への録画 DVD 提供について

第 63 回学術集会より、更新用講習会を教育委員会で信州大学の協力を得て DVD に録画し、欠席者に提供予定であること、配布方法としては、希望者に DVD 購入、聴講により単位を付与する提案があり、承認された。

#### 5) 厚生労働省医療部会専門委員会の検討を受けた新制度の状況と本学会の対応

平成 29 年度 4 月からの専門医養成については、日本専門医機構での合同委員会において、研修プログラムで一次審査を通過したプログラムは、当該領域の学会の運用で試行し、登録などは機構のシステムの利用を促す方針が示された。当会としては、平成 29 年 3 月に初期臨床研修を終える研修医は、一次審査で認定された研修プログラムによる研修を適用し、それ以外の医師は現行の学会専門医研修に準じた研修を適用する。研修プログラム公開、募集等については、機構のシステムを利用するが、その状況でなければこれまでと変わらない研修とすることとなった。また、当会として他の基本領域の専門医でセカンドキャリアとして臨床検査専門医取得を目指す医師用のオプションプログラムを整備することについて、日本専門医機構から了承を得たため検討していくこととなった。

#### 6. 監事在任中の会員種別について (矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務理事)

監事在任中に評議員退任となった場合の会員種別は、正会員とすることが承認され、それに当たる細則の改定については、会則改定委員会で検討することとなった。

#### 7. 定時社員総会について (矢富 裕 理事長)

2016 年度に係る定時社員総会について、理事会と定時社員総会のほか、当会の教育プログラムを取り入れて講演会を開催する提案があり承認された。なお、日程は 2017 年 3 月 25 日 (土) か 3 月 26 日 (日) で、次回、具体的な提案をすることとなった。

#### 8. ホームページの改訂について (矢富 裕 理事長、小柴賢洋 広報委員会委員長)

昨年、10 月 3 日の第 3 回理事会において広告委員会で HP 改訂のため、新 HP 企画、データ移行を依頼する業社のコンペの結果、一番安価であった大成(株)へ依頼することが決定していたが、実際の作業が進んでいなかったため、大成へ新 HP の提案内容の提示を依頼した。6 月 3 日に新 HP 改訂案の確認依頼をメールで送付し意見を募ったが、特に意見はなかったため、提案内容で進めていくことが確認され、維持方法とその費用については、常任理事会で検討し理事会に提案することとなった。

#### 9. IVD「臨床検査室グローバルニュース」について (矢富 裕 理事長、諏訪部章 利益相反委員会担当理事)

以前より、1 企業にコミットしている印象を受ける、広告内容が派手で多いという指摘があったため、常任理事会から利益相反委員会に、「臨床検査室グローバルニュース」を学会誌「臨床病理」に同梱する件に関して検討依頼をした。利益相反委員会ではメール審議を行い、「臨床検査室グローバルニュース」を学会誌「臨床病理」に同梱中止を提言するという結果報告がされ、これを受け同梱中止の提案がされた。これに対して、医学研究の利益相反 (COI) に関する細則に則った手続きを踏んでの利益相反委員会への依頼ではない、また、正式に CGI に是正を申し入れていないのではないかと、是正依頼を行い、それでも是正されない場合に同梱中止ということもやむを得ないと思うがとの指摘があった。そのため、CGI、理事長、精度管理委員会担当理事等で会合を持つこととなった。

#### 10. JSLM と WASPaLM の契約更新について (村上正巳 WASPaLM 会長)

世界病理学・臨床検査医学会連合と日本臨床検査医学会間で、WASPALM 東京事務局の組織と運営に関する合意書を 3 年毎に契約しているが、2016 年 5 月 27 日で契約が終了するため、2016 年 5 月 28 日～2019 年 5 月 27 日の 3 年間の更新依頼が WASPaLM よりあり合意書が提示され、承認された。

#### 11. 第 30 回日本医学会総会 2019 中部からのアンケート調査について (矢富 裕 理事長)

6 月 6 日付で、第 30 回日本医学会総会 2019 中部から、テーマ、セッションの提案、プログラム作成での留意点、提案、要望についてのアンケート調査の説明があり、6 月末日締切で理事に意見、提案依頼がされた。

## 12. 評議員の責務について（矢富 裕 理事長）

臨床検査専門医認定試験で、試験実行委員会委員の依頼に対して辞退する評議員があり、試験実行委員会では委員選出に難渋したことが報告された。臨床病理誌の査読と同様に、試験実行委員会委員は、評議員の責務として明示し、評議員再任での単位の対象などの検討を行うべきではないかとあり、今後も検討することとなった。

## 13. その他（東條尚子 庶務理事）

2016年度の今後の理事会日程について以下のとおり報告された。

第3回：8月20日（土）13：30～16：30

第4回：12月24日（土）13：30～16：30

## IV 閉会の挨拶（山田 俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長より、閉会の言葉があり、本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

宮地 勇人 

石井 潤一 